

富津市部活動地域移行協議会会議録（要旨）

1	会議の名称	令和6年度第1回富津市部活動地域移行協議会
2	開催日時	令和6年6月26日（水）16時00分～17時50分
3	開催場所	富津市役所 5階 502, 503 会議室
4	審議等事項	議案第1号 今後の方向性について 報告第1号 部活動地域移行について（南房総教育 事務所管内市町の状況について） 報告第2号 本市の現状について
5	出席者	〔会 長〕 教育部長 中山 淳子 〔委 員〕 スポーツ協会会長鈴木充、佐貫クラブ 会長周東和之、スポーツ 少年団本部長吉本充、校長会代表長谷川潤、顧問代表 川崎祐輝、小中体連代表高鍋元博、保護者代表渡邊恵 美、学識経験者多賀克之、細谷学校教育課長、篠田生 涯学習課長、長谷川栄公民館長、川島教育センター所長、 池田教育センター指導主事 〔事務局〕 教育センター 池田圭佑
6	欠席者	なし
7	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
8	非公開の理由	（理由）
9	傍聴人数	2 人
10	所管課	（部 課 係） 教育部学校教育課教育センター （電話番号） 0439-80-1346
11	会議録	別紙のとおり

(会議前諸連絡) 資料確認等

(開会の言葉)

(教育長挨拶)

(協議会会長挨拶)

(委嘱状交付)

(参加者紹介)

報告、説明

(1) 南房総教育事務所管内の進捗状況(今宮コーディネーター、渡辺指導主事)

- ① 市原市、袖ヶ浦市、木更津市、君津市、鋸南町、南房総市、鴨川市、館山市の状況について説明

(2) 本市の現状について(事務局 池田指導主事)

- ① 現在、5年後、10年後の市内中学生の人数について
- ② 市内3中学校の部員数について
- ③ 市内3中学校の部活動設置数について
- ④ 市内3中学校の外部指導者数について
- ⑤ 受益者負担時の参考資料について

議事

(1) 今後の方向性について(池田指導主事)

① 目的

- ア 市内生徒の部活動による運動の機会、文化活動の機会の確保
- イ 教員の働き方改革の視点から過度に負担にならないようにする
- ウ 地域の方々へ部活動への関わりを多く持ってもらう

② 現状

- ア 市内の生徒の人数が少なく部活動の数と合わない
- イ 顧問の数が足りずそれぞれの部活動に複数顧問を配置できていない
- ウ 現在外部指導者の数が少なく、地域の方々へ部活動に十分に参画できていない

③ 考えられる方策

- ア 目的のア、イに対して 部活動の数を段階的に減らす、形を変える
- イ 目的のイ、ウに対して ボランティアでの指導者の希望を把握し部活動指導に入ってもらう

④ 今後の方向性

- ③のアについて 市内中学校3校の校長先生を中心に会議を開き、方向性を検討する

③のイについて 地域のクラブ団体、保護者等にアンケートを行い、部活動に関わりを持てるかどうかを調査、現状把握し、各校長先生と情報を共有する

(2) その他検討事項

① 今後、受益者負担となったときの費用について

(3) 質疑、意見等

① 部活動数の減らず、形を変えることについて（合同部活動、拠点校部活動、地域移行等）

ア 中学には30年前と同程度の部活数がある。クラス数は半数以下。基本的方針には賛成だが子どもたちのことを考えると難しい面もある。

イ 個人種目は人数がいるが、団体種目は人数が足りていない部もあるので市で1つのクラブチームを作るのはどうか。

ウ 地域に移行するには、施設面、指導者の確保は難しい。部活動指導員を本年度は1名だが、予算をとり、増やすのはどうか。地域でどの程度が指導に携わってくれるのかをアンケートで調査して、次の会議で検討する。学校や保護者、地域への周知も課題。

エ 住んでいる地域では、年齢層が高い方もいて、多くの部での指導は難しいのではないかと。学校が指導してくれるとありがたい。費用面、送迎等は、個人としては負担したいが、他の保護者の方も様々な考えがあると思う。

オ 部活動の数を減らすのは難しいが、進めていかななくてはならない課題ではある。しかし、減らすことで子どもたちの選択肢が少なくなるのは子どものためにはよいことではない。

カ 部活動数もそうだが、大会を運営する団体が大会の数を精査する必要がある。大会も結局は教員が運営している実態がある。

キ 生徒の人数、学校規模、職員数が減っている。今まで通り全て学校が担うという考え方は、変えていく時期かもしれない。部活動数は減らす方向で考えることが必要。保護者、地域に理解をしてもらい、今後よい形について考えていかななくてはならない。また、国や県からは一方的にゴールを決められ、地域の実情が考えられていない。

ク 今の学校は、生徒数、顧問数に対して部活動数は多い。副顧問は複数を兼任している状況。先生方は、部活動地域移行については、現在の状態がどうなのか、詳しく知らない現状がある。部活動は減らしていくのがよいとは思いますが、少数の部員でも、子どもの声を聞くとなかなか踏み込めない。

ケ 県は、例外的なケースとして部活動の継続、部活動指導員の配置等を認めているが、これは各市町からの声が大きく、需要が多いから選択肢として残しているの

ではないか。私たちの現状は、県に訴えていかないといけない。

コ 部活動の地域移行、現状については子どもたち、学校、保護者、地域へ現状を周知していく必要がある。

② 地域ボランティアの方に指導者として入ってもらうことに対する意見等

ア 地域の方々が指導に携わってもらえるのはありがたいこと。

イ 非常に助かる。特に、専門外で指導している顧問にとっては助けになる。顧問がやったことのない種目を担当する場合は、経験者に聞いたり、オンラインで資格をとったりなど、している。

ウ 事故等の責任は、どこが運営しているかによる。学校の部活動なら学校、地域クラブなら地域の指導者になる。今の段階でいきなり地域移行するのは難しいのではないかと。地域の方々に部活動指導に関わってもらい、徐々に進めていくのがよいのではないかと。

③ 受益者負担になった時の費用について、意見、質問等

ア 柏市では、初年度は市が費用の大半を負担し、年額で5000円の保護者負担だった。2年目からは20人の部員がいると仮定すると月に2000円以上集金しないと運営できない。また、教職員も兼職兼業届を出し、指導者として携わっている。

(閉会の言葉)